

紛争の最大の問題点とその危機への心構え、前編

連日報道されている「北朝鮮のニュース」等から、核心として話される事とは別の、根源的な問題に気づかされます。それは「紛争」が実際起こった際の根本的な問題点について、当事者も報道者も、ほとんど言及していない点です。それは当たり前的事として捉えられているのかも知れませんが、戦後から72年たった今、改めて私たちは認識する必要があります。数々の、私たち人類が繰り返してきた「政治的な紛争」「宗教的な紛争」「思想的な紛争」いろいろありますが、そこに巻き込まれる人たちは間違いなく「苦しみ」しかありませんでした。理由は、紛争があり戦闘等が行われている限り、絶対にその地域の発展があり得ないからです。そして、もともと貧しい人たちは必ずさらに貧しくなります。持ち物も全部無くしてしまいます。家も無くなってしまう。知らないところに逃げなくてはなりません。紛争が収まり、また戻ってきてから始めなくてははいけません。だから良い事は何もないと私は確信しています。大規模な紛争が起こるかも知れない今、vol.38「いき過ぎた部分最適化社会の罪、後編」でも、述べましたが、「少し視点を地球規模に広げてみると、国際交渉も、相も変わらず、アメリカ主導の枠組み論がベースで世界制覇されているように感じます。枠組み論をベースにすすめるだけでは、どうやっても世界がバラバラになっていくだけです。支配力のある人たちの非常に貧しい発想で世界が制覇されてしまっている現状が歯痒いです。」私たちの手の届かない問題にどう対処すれば良いか?…答えは意外と簡単なのかも知れませんが、紙面の都合もありますので、次回、改めて述べます。…テーマも非常に難しく、少し言い過ぎでしょうか。でも、「激しく世の中に突きつけていくものが無ければ、議員をやっている意味がない。」とも感じています。ただ、やはり言いたい事はひとつです。みなさんで「平和な理想の社会」を思い描き、話し合ってみて下さい。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ!

平成29年11月2日

増田好秀